

# 参院特別委

# 安保16日採決方針

# 与党週内成立狙う

参院平和安全法制特別委員会は8日、安全保障関連法案をめくり、採決の前提となる中央公聴会を15日に開催する日程を与党などの賛成で議決した。与党は16日に特別委で採決する方針。早ければ同日の参院本会議に緊急上程し、野党が抵抗しても18日までに成立させる構えだ。民主、共産両党は審議が不十分だとして公聴会に反対したが、鴻池祥肇委員長（自民党）が職権で議決を判断した。参院採決に向けた情勢が緊迫の度を増した。

（5面に関連記事）

## 与党が想定する 安保法案の審議日程

9月9日	参院特別委で一般質疑
14日	特別委で集中審議
15日	中央公聴会
16日	特別委で法案採決、参院本会議で可決・成立？

### 野党の抵抗でずれ込み？

与党は安倍晋三首相が8日、自民党総裁に無投票で再選したのを受け、安保法案成立へ道筋を付けようと動きを加速。企業の派遣受け入れ期間の制限をなくす労働者派遣法改正案も同日、参院厚生労働委員会でも与党の賛成多数により可決した。与党は特別委に先立つ理事会で、15日の中央公聴会と併せて14日に首相が出席する集中審議も提案した。16日に締めくくり質疑を行い、採決に踏み切る考えだ。与党は参院本会議での採決も16日中を目指すものの、野党が内閣不信任決議案などを提出し抵抗すれば、17日や18

日にずれ込む可能性もある。14日以降は衆院で再可決・成

9/10  
A76  
J76

立させる「60日ルール」が適用できるため、混乱が長引いた場合は、与党が再可決を避けるかどうかが焦点となる。民主党は8日の理事会で、地方公聴会などを実施して審議を続行すべきだと主張し、与党提案に反発した。自民、民主両党理事は鴻池氏を交え断続的に協議したが、平行線だった。

民主の岡田克也代表は都内での街頭演説で、公聴会議決について「相談もなく、抜き打ちの採決だった」と批判。強行で中央突破するのが首相の意図だ。これからの本場の戦いだ」と訴えた。維新の党など野党は参院に対案や修正案を提出したが、与党は修正に応じず原案のまま採決する方針だ。中央公聴会の議決には自民、公明両党に加え、修正案を提出している次世代の党、日本を元気にする会、新党改革の3党が賛成した。